島根県立大学短期大学部出雲キャンパス
研究紀要　第２巻，41－48，2008

助産師外来の問題点に関する文献検討

駒沢　　彩・三島みどり・狩野　鈴子・濵村美和子

概　要

助産師外来の問題点を把握するために文献検討を行った。

「助産師外来」「妊婦健康診査」「保健指導」「問題点」をキーワーズとし，医学中央雑誌で抽出できた文献は６件であり，妊産婦及び助産師と医師の意見について分析した。

妊産婦は，問題点として医師がいないことへの不安であった。助産師は，問題点として主に超音波診断や助産診断についての不安であった。医師は，問題点として助産師の診断能力や技術面の不足であった。

これらの問題点に対しては，医師との連携，助産診断能力の向上が解決策になると考えられた。

キーワード：助産師外来，妊婦健康診査，保健指導，問題点

Ⅰ．はじめに

助産師外来の業務内容は，妊娠期から産褥期までの，健診・相談・指導など多岐に渡っている。菅沼らによる，助産師外来開設後の，その外来を利用した女性に対する調査では，助産師が妊婦健康診査を行いながら，コミュニケーションを持ち，さらに利用者に合わせて個別指導を実施することで，妊産褥婦の満足度が高くなった（菅沼，2005）と報告されている。

しかし，佐藤らの，2003年の全国500床以上の病院に対する，助産師外来開設に関しての調査では，30％（90/295件）で開設され，業務内容は，ほとんどが保健指導中心で，妊婦健康診査の実施は9.1％（27/295件）（佐藤，2005）となっている。

妊婦にとって，助産師外来における妊娠期からの助産師との関わりは，胎児の発育や自分自身の妊娠経過を知ることができ，また不安や悩みに対する精神的な面からのサポートが得られ，分娩や育児に対しての自信にもつながる利点がある。また，助産師にとっても，自律した助産診断や技術の向上につながっていくと思われる。

本調査では，助産師外来について妊産婦及び助産師と医師が感じている問題点を文献により把握し，助産師外来をより良い外来とするためにはどのようにすればよいのか検討することを目的とした。

本研究は，本学平成20年度特別研究費の助成を受けて行った。

Ⅱ．研究方法

医学中央雑誌にて，「助産師外来」「妊婦健康診査」「保健指導」「問題点」をキーワーズとし，検索を行った。検索対象年は，現状の助産師外来の問題点を検討するために，2003年から2008年の５年間とした。検索で得られた文献のうち，解説及び会議録は除外し，原著論文のみとした（表１）。

検索の結果，「助産師外来」「妊婦健康診査」「保健指導」「問題点」では０件，「助産師外来」のみの検索では92件であった。92件の中で原著論文は21件であった。21件の文献を著者らが読み，実施されている内容で絞込みを行った。

21件のうち，妊婦健康診査を含む助産師外来を行っていた文献は８件，その他13件であった。８件のうち，妊産婦及び助産師と医師の意見が述べられていた文献は６件であった。そのうち１件は，内容を検討した結果，報告であった。

表１　対象文献の内容

	表題	発表年月	出典	調査目的	調査方法	対象者
1	岩手県立釜石病院助産師外来の現状と課題（原著論文）	2006.12	岩手県立病院医学会雑誌	助産師科の設立，現状と課題	質問用紙によるアンケート調査	看護師44名 助産師６名 外来受診者100名
2	助産師が自立して助産ケアを行う体制への検討－助産師外来の実績，および医師・助産師の意見を通して－（原著論文）	2007.01	日本看護学会論文集：母性看護	自立した助産ケアを行う上での問題点	自記式質問紙	医師4名 助産師12名 看護師6名
3	出産サービスに対する満足度調査　Ⅱ－助産師外来を取り入れて－（原著論文）	2005.12	日本看護学会論文集：母性看護	利用者の満足度，助産師の満足度（前回と比較），今後の課題	アンケート調査	褥婦118名 助産師6名
4	助産師外来実践報告－開設後一年を経過して－（原著論文）	2003.11	日本看護学会論文集：母性看護	現状と今後の課題	自由記述選択的質問紙	褥婦53名 助産師11名 医師4名
5	助産師外来開設から10年の振り返りと今後の課題－助産師外来に関する意識調査より－（原著論文）	2002.12	茨城県母性衛生学会誌	受診者の不足，課題の明確化	聞き取り調査	褥婦50名 助産師23名
6	褥婦の感想から見る産科スタッフの関わりについての検討（報告）	2004.12	鹿児島県母性衛生学会誌	援助の検討	聞き取り法	産褥4日目の褥婦（人数不明）

著者らで，妊産婦及び助産師と医師の意見を，助産師に対する評価，医師に対する評価，助産師自身の評価，助産師外来に対する評価，次回の利用・他者への紹介希望の有無，助産師外来で必要な助産師のスキルの６項目に分類した。各項目で問題点，運営上の工夫，その他の意見を抽出し，今後のあり方を検討した。

Ⅲ．助産師外来の定義

本研究における助産師外来の定義は，助産師が主体的に健康診査や保健指導を行う妊婦健康診査を含む外来とした。

Ⅳ．結　　果

表２に示す。

１．妊産婦の意見

助産師に対する評価として，問題点，運営上の工夫は記載なしであった。その他の意見としては，「相談にのってくれた」「相談への対応は満足」「助産師の対応がよい」「同じ助産師で安心」「女性同士で話しやすい」「先生に聞けないことも聞けた」であった。

医師に対する評価として，問題点は，「医師が診察にいないことへの不安がある」であった。運営上の工夫は記載なし，その他の意見としては，「医師が診察にいないことへの不安はない」「医師が良い」であった。

助産師外来に対する評価として，問題点は，「助産師外来を知らない」「助産師外来は不安」であった。運営上の工夫は，「食事の作り方や食事指導を取り入れてほしい」であった。その他の意見は，「リラックスして受けられた」「悩みの解決に役立った」「聞きたいことが聞き易い雰囲気だった」「受けて良かった」「毎回楽しみにしていた」「待ち時間が少ない」「助産師外

表2　妊産婦・助産師・医師の助産師外来に対する問題点や運営上の工夫の記載内容

妊産婦	助産師	医師
助産師に対する評価 1.問題点記載なし 2.運営上の工夫記載なし 3.その他の意見 ・相談にのってくれた ・相談への対応は満足 ・助産師の対応がよい ・同じ助産師で安心 ・女性同士で話しやすい ・先生に聞けないことも聞けた		助産師に対する評価 1.問題点 ・助産師の診断能力や技術での問題がある 2.運営上の工夫記載なし 3.その他の意見 ・大きなトラブルもなくよく頑張っている
医師に対する評価 1.問題点 ・医師が診察にいないことへの不安がある 2.運営上の工夫記載なし 3.その他の意見 ・医師が診察にいないことへの不安はない ・医師が良い	医師に対する評価 1.問題点記載なし 2.運営上の工夫 ・異常時に医師への診察依頼をするタイミングが難しい ・医師との連携の見直しが必要 3.その他の意見記載なし	
	助産師自身の評価 1.問題点 ・超音波の習得が必要 ・超音波の操作に慣れてきた反面，その超音波診断や妊娠経過の助産診断が的確であったのか常に不安がある ・超音波診断や妊娠経過の助産診断が妥当であるか常に不安がつきまとう ・責任が重い ・一人で診断できるか自信がない ・診断能力・指導内容に不安がある ・指導が出来ていない ・自分の助産診断が間違っていないか ・自分自身の不安がある ・継続的な情報や妊婦とのコミュニケーションがとりにくい ・援助は良かったのか ・責任感が重荷に感じたこともあった ・不安や相談に対する対応ができていない ・満足感や責任感，やりがいをあまり感じていない ・負担や不安を感じる ・意見の統一が院内で出来ない為，助産師教育で学んだことが実践できず診療の介助に追われている 2.運営上の工夫 ・助産師の意識の変革により，もっと充実したものとなる 3.その他の意見 ・専門性の発揮ができている ・一人前に認められた	

妊産婦	助産師	医師
	・妊婦とのコミュニケーションはとれた ・妊娠各期の保健指導や助産診断が得られた ・妊婦の不安に関しての知識が得られた ・責任感・充実感が強くなった ・今のままで妊婦のケアに満足感がもてるようになった ・満足感や責任感，やりがいを感じる ・負担や不安をあまり感じていない ・助産師としての専門性の発揮につながり，妊産婦のケアの満足が図れる	
助産師外来に対する評価 1.問題点 ・助産師外来を知らない ・助産師外来は不安 2.運営上の工夫 ・食事の作り方や食事指導を取り入れてほしい 3.その他の意見 ・リラックスして受けられた ・悩みの解決に役立った ・聞きたいことが聞き易い雰囲気だった ・受けて良かった ・毎回楽しみにしていた ・待ち時間が少ない ・助産師外来を知っている ・助産師外来は安心	助産師外来に対する評価 1.問題点 ・助産師外来の回数を増やさない方が良い 2.運営上の工夫 ・助産師外来のPRが必要 ・助産師のネーム表示が必要 3.その他の意見 ・助産師外来の回数を増やしてもよい	助産師外来に対する評価 1.問題点記載なし 2.運営上の工夫 ・助産師が行う健診数を増やしたほうがよい 3.その他の意見 ・助産師外来の開設は有効 ・妊婦の満足度アップにつながるのでよい
次回の利用・他者への紹介希望の有無 1.問題点 ・助産師外来を希望しない 2.運営上の工夫記載なし 3.その他の意見 ・助産師外来をまた希望する ・次回も利用する ・他者への紹介をする ・助産師外来を知っていたら受診していた，次回の時はぜひ受診したい		
	助産師外来で必要な助産師のスキル 1.問題点記載なし 2.運営上の工夫 ・妊婦指導できる知識，知識やコミュニケーション能力，正常・異常を判断できる知識，妊婦健診，種々の保健指導の習得が必要 3.その他の意見記載なし	

来を知っている」「助産師外来は安心」であった。

次回の利用・他者への紹介希望の有無として，問題点は，「助産師外来を希望しない」であった。運営上の工夫は記載なしであった。その他の意見は，「助産師外来をまた希望する」「次回も利用する」「他者への紹介をする」「助産師外来を

知っていたら受診していた，次回の時はぜひ受診したい」であった。

2．助産師の意見

医師に対する評価として，問題点は記載なしであった。運営上の工夫は，「異常時に医師への診察依頼をするタイミングが難しい」「医師との連携の見直しが必要」であった。その他の意見は記載なしであった。

助産師自身の評価として，問題点は，「超音波の習得が必要」「超音波の操作に慣れてきた反面，その超音波診断や妊娠経過の助産診断が的確であったのか常に不安がある」「超音波診断や妊娠経過の助産診断が妥当であるか常に不安がつきまとう」「責任が重い」「一人で診断できるか自信がない」「診断能力・指導内容に不安がある」「指導が出来ていない」「自分の助産診断が間違っていないか」「自分自身の不安がある」「継続的な情報や妊婦とのコミュニケーションがとりにくい」「援助は良かったのか」「責任感が重荷に感じたこともあった」「不安や相談に対する対応ができていない」「満足感や責任感，やりがいをあまり感じていない」「負担や不安を感じる」「意見の統一が院内で出来ない為，助産師教育で学んだことが実践できず診療の介助に追われている」であった。運営上の工夫は，「助産師の意識の変革により，もっと充実したものとなる」であった。その他の意見は，「専門性の発揮ができている」「一人前に認められた」「妊婦とのコミュニケーションはとれた」「妊娠各期の保健指導や助産診断が得られた」「妊婦の不安に関しての知識が得られた」「責任感・充実感が強くなった」「今のままで妊婦のケアに満足感がもてるようになった」「満足感や責任感，やりがいを感じる」「負担や不安をあまり感じていない」「助産師としての専門性の発揮につながり，妊産婦のケアの満足が図れる」であった。

助産師に対する評価として，問題点は，「助産師外来の回数を増やさない方が良い」であった。運営上の工夫は，「助産師外来のPRが必要」「助産師のネーム表示が必要」であった。その他の意見は，「助産師外来の回数を増やしてもよい」であった。

助産師外来で必要な助産師のスキルとして，問題点の記載はなしであった。運営上の工夫は，「妊婦指導できる知識，知識やコミュニケーション能力，正常・異常を判断できる知識，妊婦健診，種々の保健指導の習得が必要」であった。その他の意見はなしであった。

3．医師の意見

助産師に対する評価として，問題点は，「助産師の診断能力や技術での問題がある」であった。運営上の工夫は記載なしであった。その他の意見は，「大きなトラブルもなくよく頑張っている」であった。

助産師外来に対する評価として，問題点は記載なしであった。運営上の工夫は，「助産師が行う健診数を増やしたほうがよい」であった。その他の意見は，「助産師外来の開設は有効」「妊婦の満足度アップにつながるのでよい」であった。

V．考　　察

1．妊産婦の意見

助産師に対する評価としては，肯定的意見のみで，助産師に対する満足感や，安心感があった。具体例として，「先生に聞けないことも聞けた」とあり，妊婦健康診査から関われる助産師外来が，対象者である妊産婦の満足度につながっていると考えられる。

医師に対する評価としては，「医師が診察にいないことへの不安がある」という助産師が行う診察への不安が伺える。現状でも，医師による妊婦健康診査が一般的で，助産師が行う妊婦健康診査の理解が低いことが考えられる。原田らの調査でも，助産師外来は医師の医療行為そのものでないこと，また医師に比べ助産師の専門性に対する理解が普及していないことなどによるもの（原田，2003）とあり，助産師の役割が正しく理解されず，不安につながっていることも考えられる。

2．助産師の意見

医師に対する評価としては，医師との関係に対して連携の見直しがある。助産師外来を開設

し，運営する上で，医師との連携は必要不可欠であり，お互いの特性を理解し，役割分担を行うことが大切である。

助産師自身の評価としては，満足感が得られている助産師も多く，助産師自身の成長に大きくつながっていると考えられる。反対に，問題点も多くあり，助産師の意見の特徴としては，妊婦健康診査に関する技術や診断に関する不安，自分自身に対する不安であった。その背景には，助産師外来を行う助産師の基準もなく，助産師外来の内容も各施設において決められ運営されている現状がある。助産師自身の幅広い知識と技術が必要とされるため，不安が強く残ってしまうと考えられる。

助産師外来で必要な助産師のスキルとしては，助産師の知識・技術の習得に対して，前向きな意見であった。今後，少しでも不安をなくした状態で，助産師外来を運営できるよう知識・技術の確認を行うことが必要である。

3．医師の意見

助産師に対する評価としては，否定的意見と肯定的意見がある。

医師に対する意識調査の特徴として，助産師が行う妊婦診察に対して，医師の意見が二極分化している（鈴井，2005）とある。今回の対象文献からは，２文献しか医師に対しての調査は行われていなかったため，二極分化を検討することは出来なかったが，施設に対して行われた研究に，医師の意見があった。肯定的な意見としては，助産師が妊婦健診を担当してもよいのではないか，妊婦健診は助産師に移行する予定などが挙がり，反対に，助産師による妊婦健診は問題外，助産師に自覚と覚悟があるか疑問など，否定的な意見も聞かれている。

助産師に対する問題点の解決としては，「助産師外来」は，助産師としての，実績の上に培われた医師との信頼関係の確立こそが絶対的に必要な前提条件（秋山，2002）とあり，医師との連携，意見交換を行うことが，信頼関係の確立につながっていくと考えられる。

4．文献研究の限界と今後の課題

今回の研究の限界は，文献数が少なく，意見をまとめる上でも妥当性に欠けた。今後は，文献検索年数を広げ，妊婦健康診査を含む助産師外来の文献を多く集め，妊産婦及び助産師や医師の意見を多く集めて検討していきたい。

Ⅵ．ま　と　め

助産師外来の問題点を把握するために文献検討を行った結果，「助産師外来」をキーワードとした原著文献は，21件であった。その中で，妊婦健康診査を含む助産師外来を行い，妊産婦及び助産師と医師の意見があった文献は，６件であった。

助産師外来について，妊産婦からは，医師が診察にいないことに不安があること，助産師からは，自分自身の診断・指導能力の不安，医師からも助産師の診断・技術能力が問題点としてあった。

本調査で明らかになった問題点に関しての解決策は，医師との連携，助産師自身の助産診断能力の向上が必要であると考えられる。

文　　献

秋山順子，内桶良子，石川厚子，土田光江，糸賀三恵子（2002）：助産師外来開設から10年目の振り返りと今後の課題　助産師外来に関する意識調査より，茨城県母性衛生学会誌，22号，54，56.

江口美香，濱田奈緒，三井佳子，内村祐子，西千晶，昇眞寿夫，松本俊彦（2004）：褥婦の感想から見る産科スタッフの関わりについての検討，鹿児島県母性衛生学会誌，９巻，７.

小笠原敏浩，村井真也（2006）：岩手県立釜石病院助産師外来の現状と課題，岩手県立病院医学会雑誌，46巻２号，146-148.

佐藤喜根子，佐藤祥子（2005）：【母乳外来からみる“お金とケア”の関係】助産師が自主運営する施設内助産所と助産師外来に関する調査，助産雑誌，59巻３号，222-223.

菅沼清美，隅田真理子，田中美智代，林貴代美，高原麻有子，尾崎由美，奥原由紀（2005）：出産サービスに対する満足度調査Ⅱ－助産

師外来を取り入れて－，日本看護学会論文集：母性看護，36号，26-28.

鈴井江三子，平岡敦子，蔵本美代子，田中奈美，滝川節子（2005）：日本における妊婦健診の実態調査，母性衛生，46巻１号，154，160.

原田香織，高田佳織，橋本美雪（2003）：助産師外来実践報告－開設後一年を経過して－，日本看護学会論文集：母性看護，34号，79-81.

横尾奈保子，上野恭子（2007）：助産師が自立して助産ケアを行う体制への検討－助産師外来の実績，および医師・助産師の意見を通して－，日本看護学会論文集：母性看護，37号，18-19.

Document Examination Concerning Problems After Associate Production Master Outpatient is Established

Aya KOMAZAWA, Midori MISHIMA, Reiko KANO and Miwoko HAMAMURA

Key Words and Phrases : associate production master outpatient, midwife outpatient, health guidance, problem